



中野冷機株式会社

2021年12月期 決算説明会

2022年3月10日

東京証券取引所スタンダード市場

証券コード：6411

- I. 2021年12月期 決算の概要**
- II. 2022年12月期 業績予想**
- III. 中長期経営計画“*N-ExT2023*”**
- IV. 株主還元方針**
- V. 企業価値向上に向けた取り組み**



I. 2021年12月期 決算の概要

1. 業績サマリー
2. 損益計算書
3. 増減要因分析
4. 販売実績（事業分野別・販売国別）
5. 貸借対照表
6. キャッシュフロー計算書



2021年は全事業合計で売上高326億円の実績（前年同期比15.4%増）



【ショーケース・倉庫事業】⇒増収 （前年同期比16.3%増）

- スーパーマーケット向け売上は、コロナ禍での「内食需要」が依然として高く、店舗の改装需要が好調だったことにより増収
- コンビニエンス・ストア向け売上、物流センター等の大型物件向けも堅調に推移



【メンテナンス事業】⇒増収 （前年同期比17.6%増）

- コロナ禍においても修理要請は継続して発生
- 提案型メンテナンスの継続とメンテナンス範囲の拡大が需要の掘り起こしに結びつき増収



【海外事業】⇒増収 （前年同期比5.4%増）

- 中国国内での新型コロナウイルス感染症対策により、経済活動が先行き不透明な中でも積極的に営業活動行った結果、増収

2. 2021年12月期 損益計算書

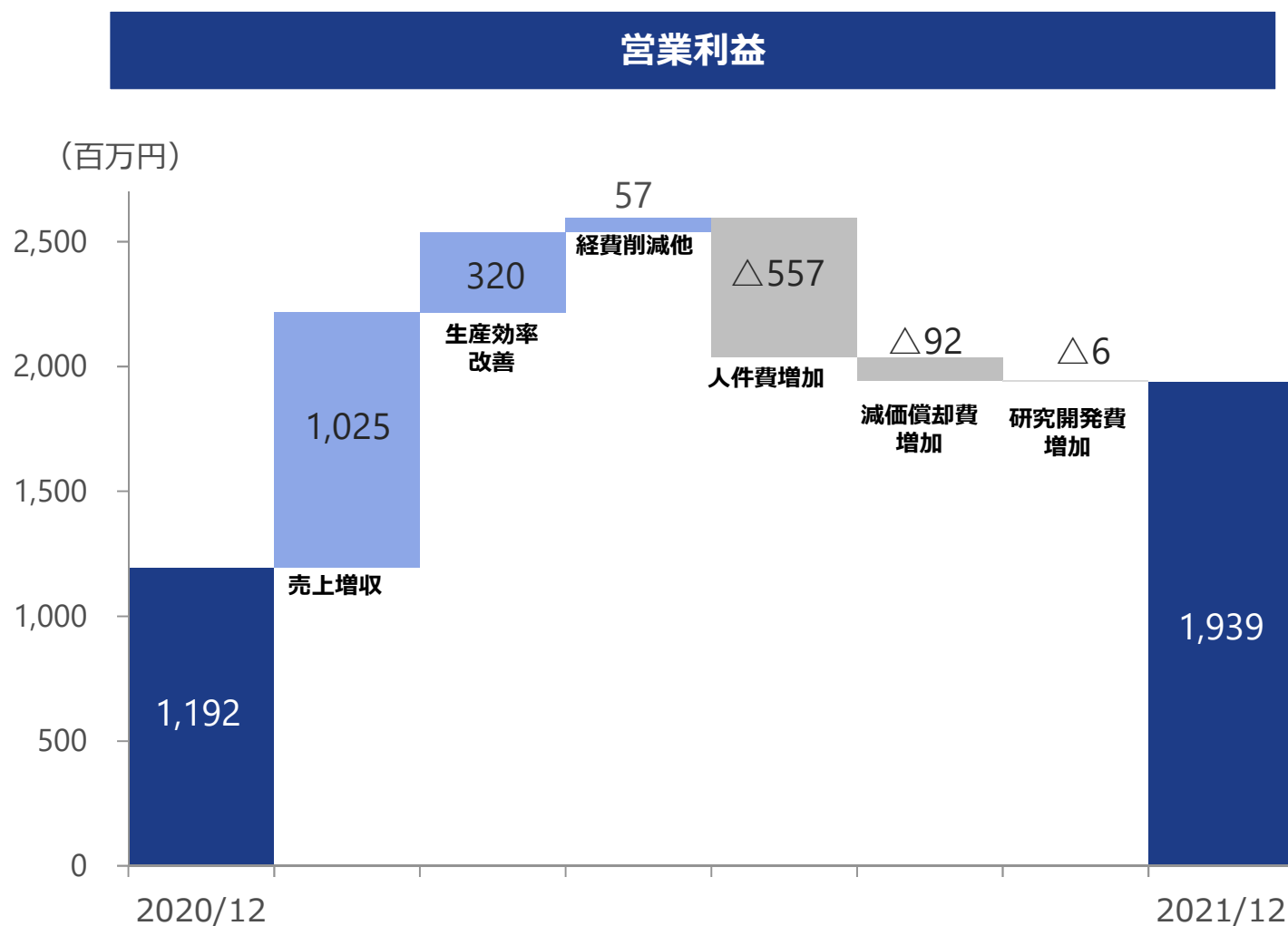
・ コロナ禍での「内食需要」が依然として高く、スーパーマーケットの改装需要が好調

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

	2020/12		2021/12				前期比 増減
	実績	構成比	当初予想 (21.2.10)	修正予想 (21.8.12)	実績	構成比	
売上高	28,244	100.0	27,400	32,000	32,606	100.0	4,362
ショーケース・倉庫事業	21,934	77.7	—	—	25,509	78.2	3,575
メンテナンス事業	3,676	13.0	—	—	4,323	13.3	646
海外事業	2,633	9.3	—	—	2,774	8.5	141
営業利益	1,192	4.2	1,263	2,092	1,939	5.9	746
経常利益	1,286	4.6	1,356	2,200	2,054	6.3	767
親会社株主に帰属する 当期純利益	912	3.2	925	1,492	1,406	4.3	493

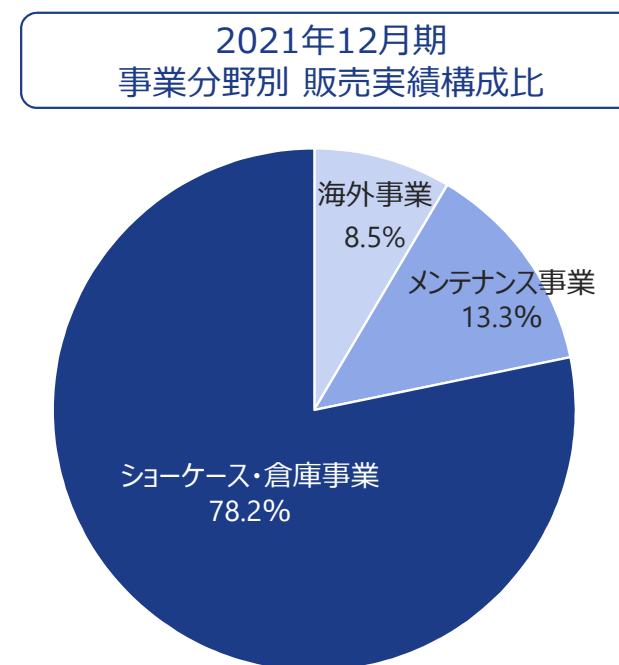
3. 2021年12月期 増減要因分析

営業利益はスーパーマーケット向け売上好調により増益



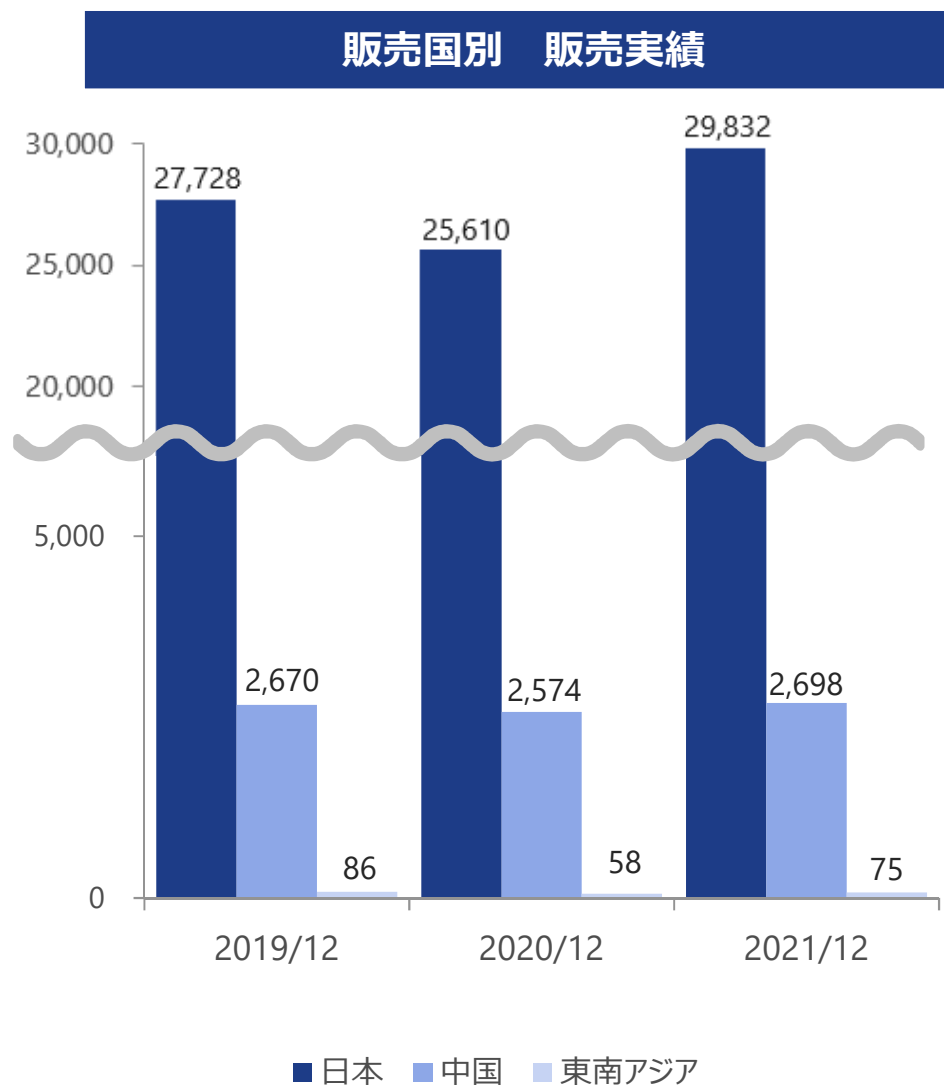
4-1. 2021年12月期 販売実績（事業分野別）

- ・ ショーケース・倉庫事業はスーパーマーケットの改装が好調
- ・ メンテナンス事業は提案型メンテナンスの継続効果により増収

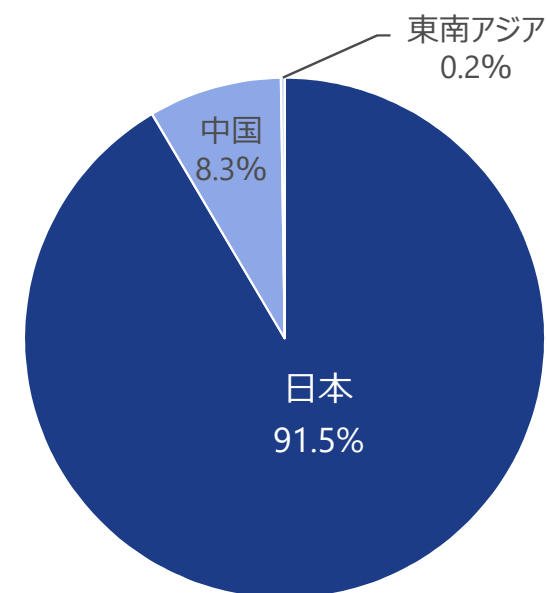


4-2. 2021年12月期 販売実績（販売国別）

日本は売上伸長も中国は微増



2021年12月期
販売国別 販売実績構成比



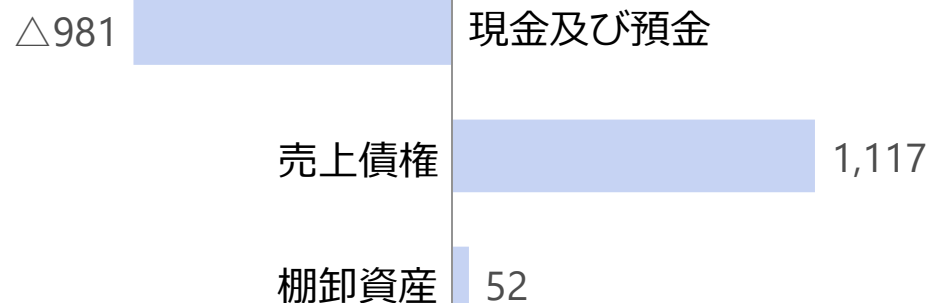
5. 2021年12月期 貸借対照表

2021年12月期第2四半期末
総資産 35,240百万円

+54百万円

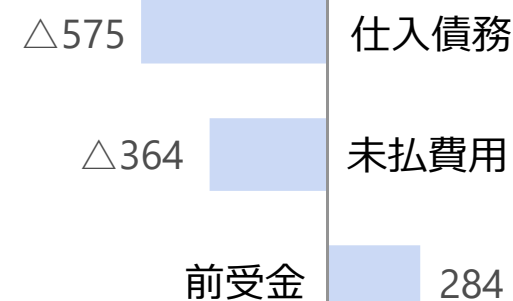
2021年12月期末
総資産 35,295百万円

流動資産 +141



負債 △618

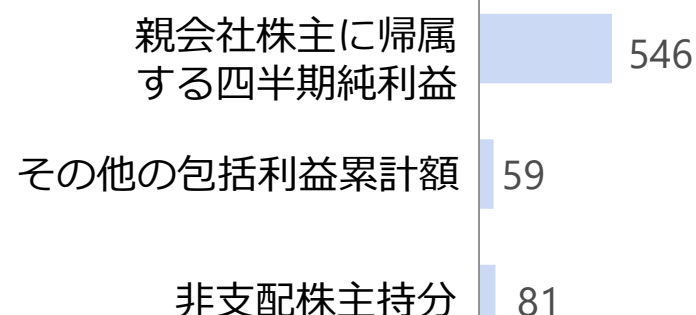
(百万円)



固定資産 △86

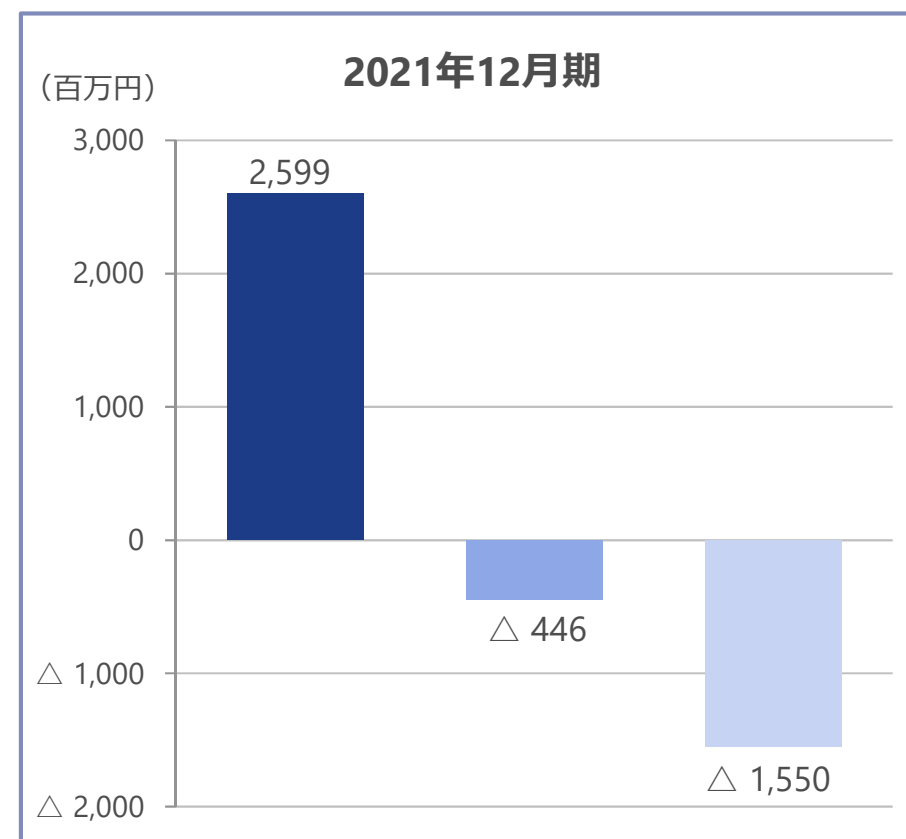
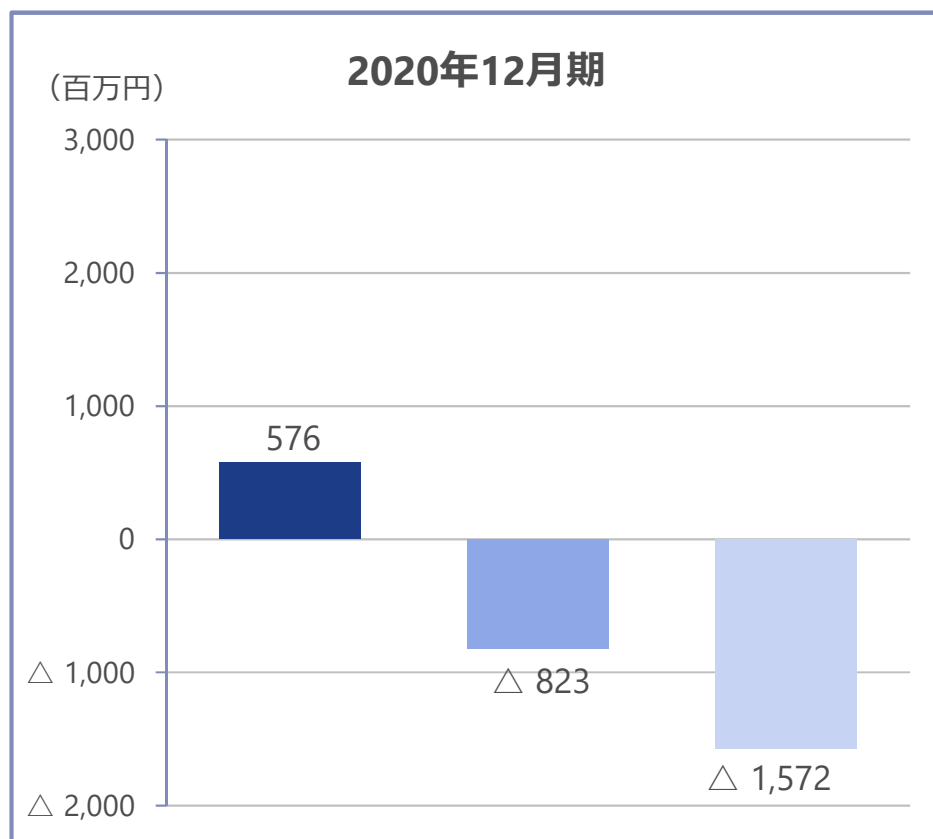


純資産 673



自己資本比率 2021年2Q 68.7% 2021年4Q 70.3% +1.6%

6. 2021年12月期 キャッシュフロー計算書



■ 営業活動CF ■ 投資活動CF ■ 財務活動CF

【ポイント】

《2021年12月期 営業活動CF》

- 税金等調整前当期純利益 2,052百万円
- 減価償却費 531百万円

II. 2022年12月期 業績予想

1. 業績サマリー
2. 損益計算書
3. 増減要因分析
4. 販売見込（事業分野別・販売国別）



2022年は全事業合計で売上高297億円を見込む（前年同期比8.9%減 予想）



【ショーケース・倉庫事業】（前年同期比11.6%減予想）

- スーパーマーケットは、改装需要が前年の実績には及ばない見込み
- コンビニエンス・ストアは、新規出店抑制が継続
- 倉庫事業は、ネット販売、宅配事業普及により堅調に推移



【メンテナンス事業】（前年同期比1.8%増予想）

- 提案型メンテナンスの拡大により新規の受注を獲得
- 店舗空調設備の保守点検等メンテナンス領域の拡大を推進



【海外事業】（前年同期比0.5%減予想）

- 中国においては、消費者のライフスタイル変化に合わせ、オンラインストアや小型店舗での販売が加速していく動き
- 顧客の出店抑制により受注減少の見込み

2. 2022年12月期予想 損益計算書

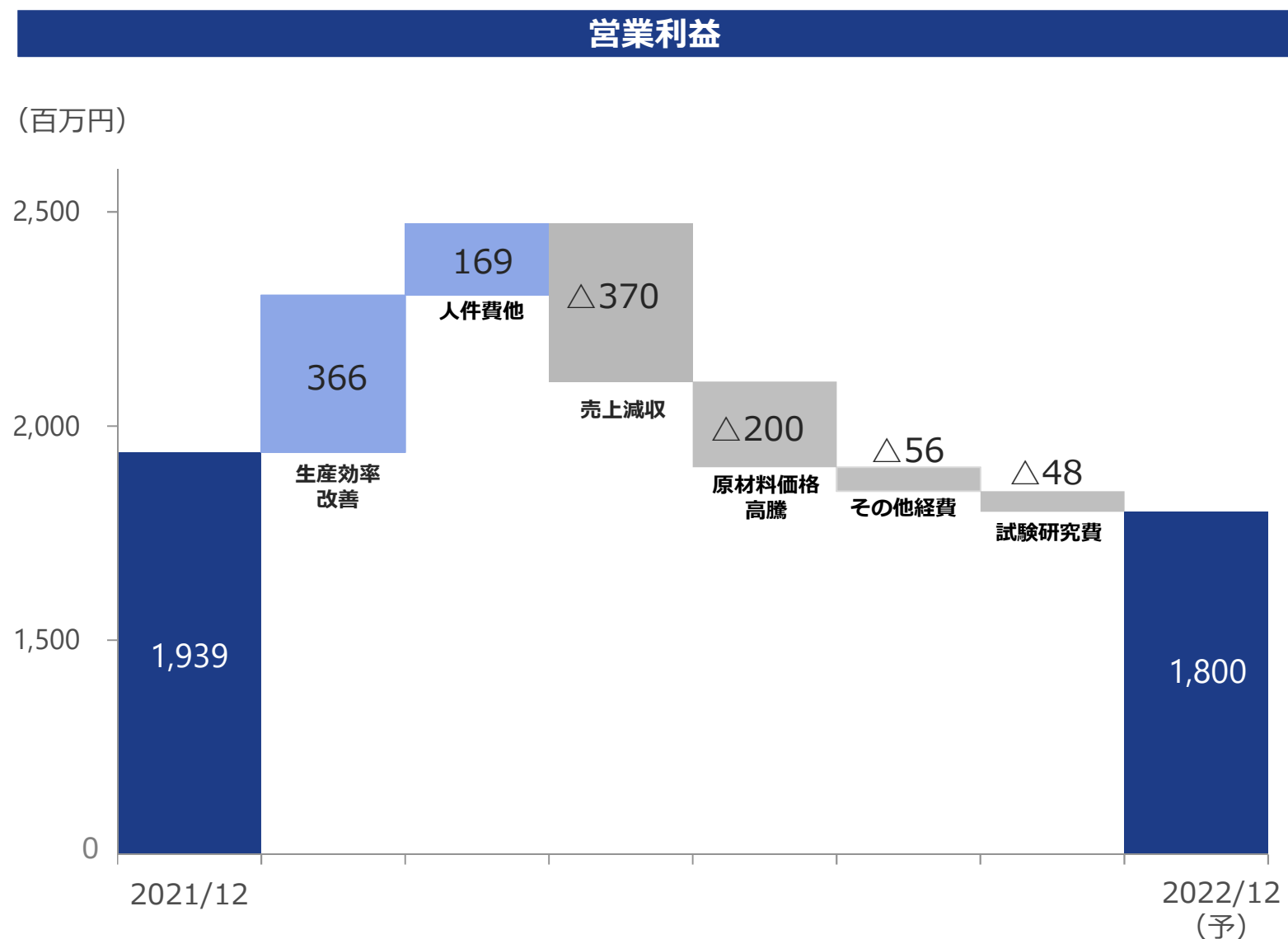
スーパーマーケットの改装が前年実績には及ばず減収見込み 改装需要の掘り起こしと生産性の改善に取り組み利益率の確保を目指す

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

	2021/12		2022/12 前期比			
	実績	構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	32,606	100.0	29,700	△ 2,906	△ 8.9	100.0
ショーケース・倉庫事業	25,509	78.2	22,540	△ 2,969	△ 11.6	75.9
メンテナンス事業	4,323	13.3	4,400	76	1.8	14.8
海外事業	2,774	8.5	2,760	△ 14	△ 0.5	9.3
営業利益	1,939	5.9	1,800	△ 139	△ 7.2	6.1
経常利益	2,054	6.3	1,900	△ 154	△ 7.5	6.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,406	4.3	1,291	△ 115	△ 8.2	4.3

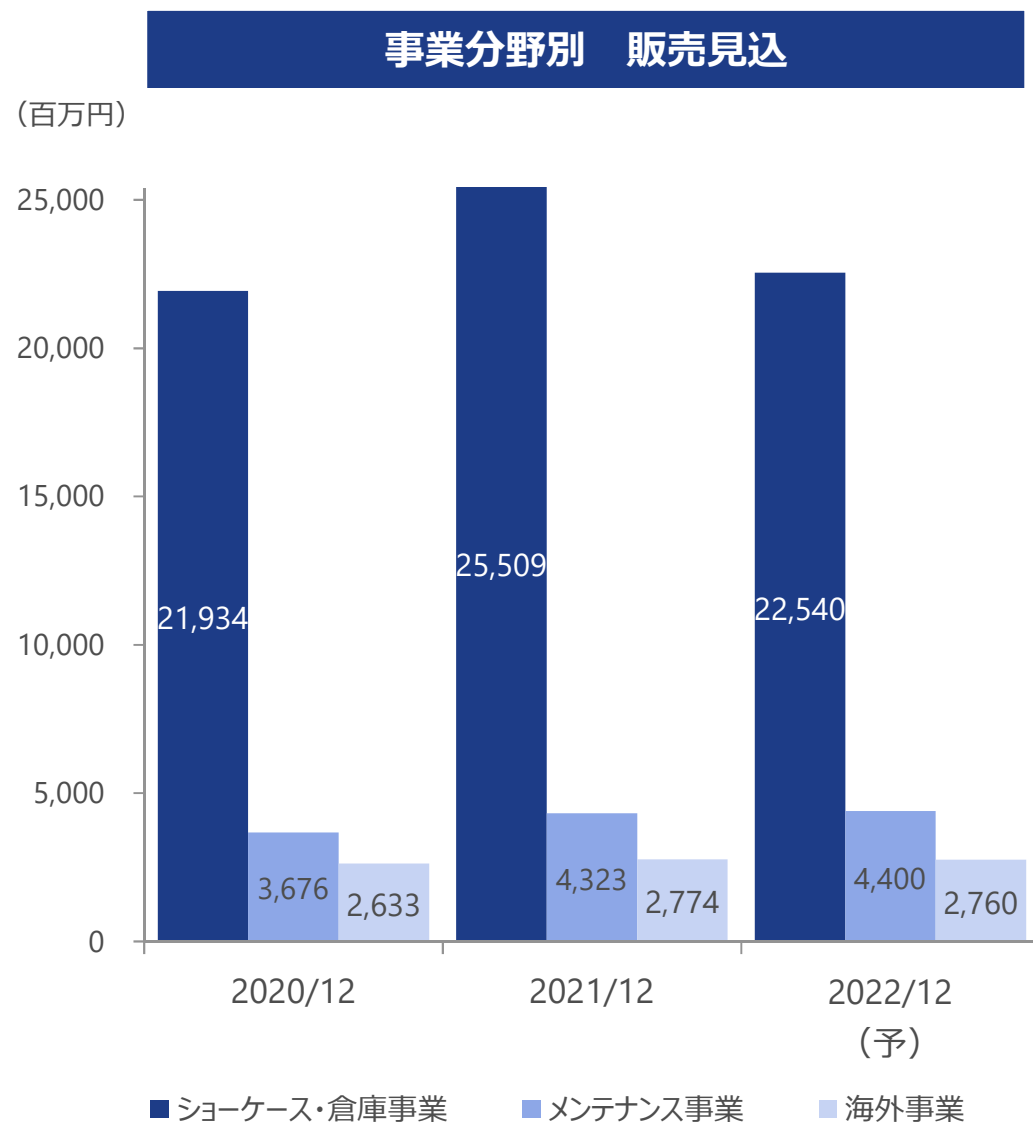
3. 2022年12月期予想 増減要因分析

生産効率改善も、売上減収、原材料価格高騰により減益予想

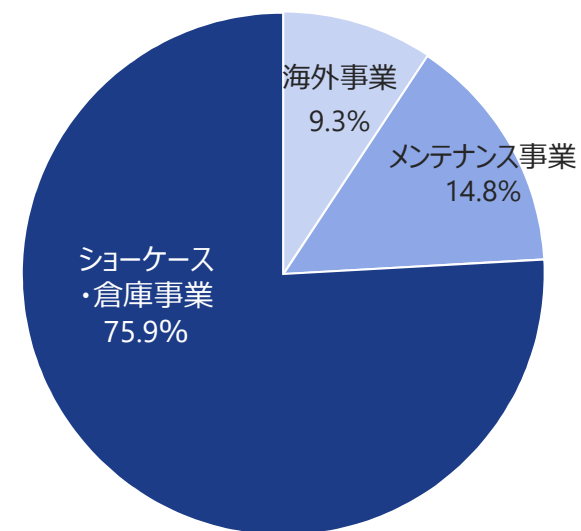


4-1. 2022年12月期予想 販売見込（事業分野別）

ショーケース・倉庫事業は減収予想 メンテナンス事業は増収予想

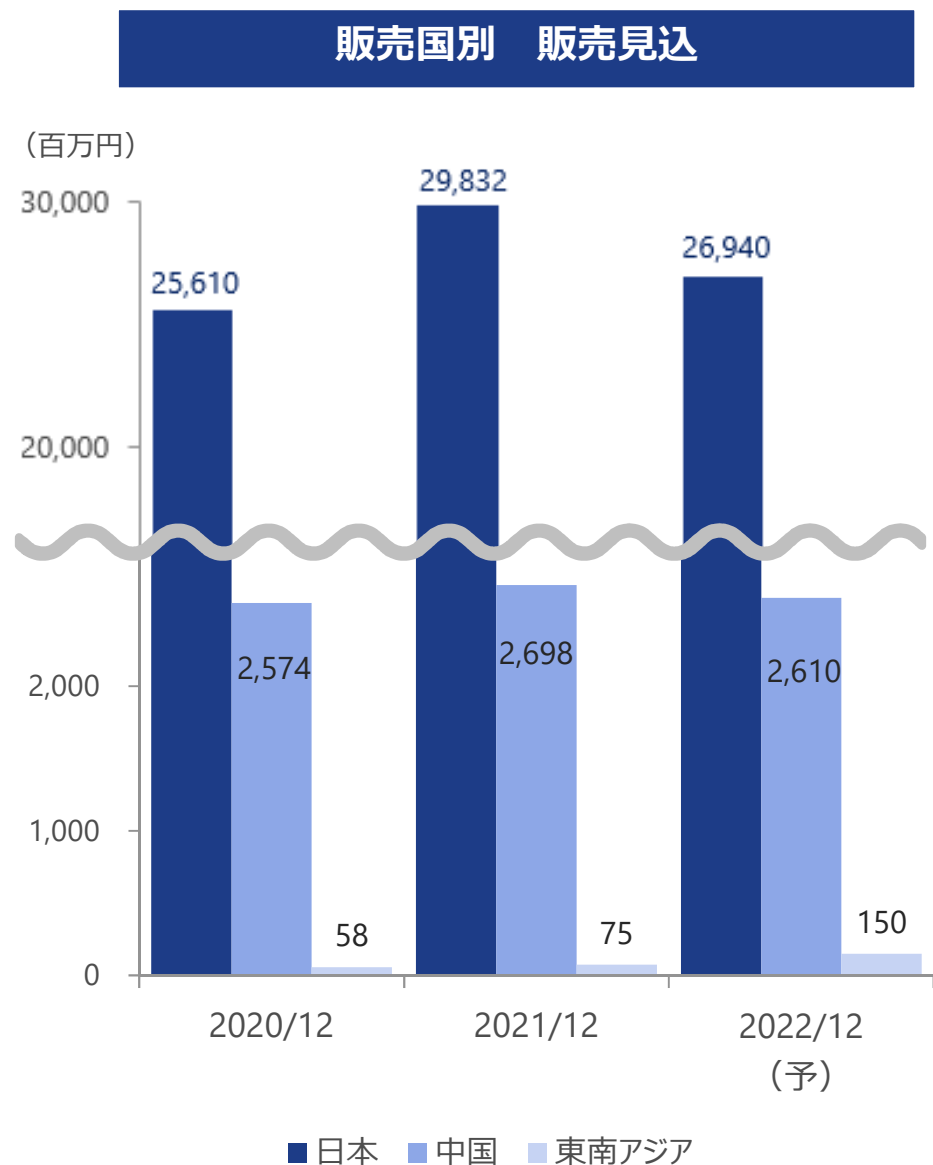


2022年12月期予想
事業分野別 販売見込構成比

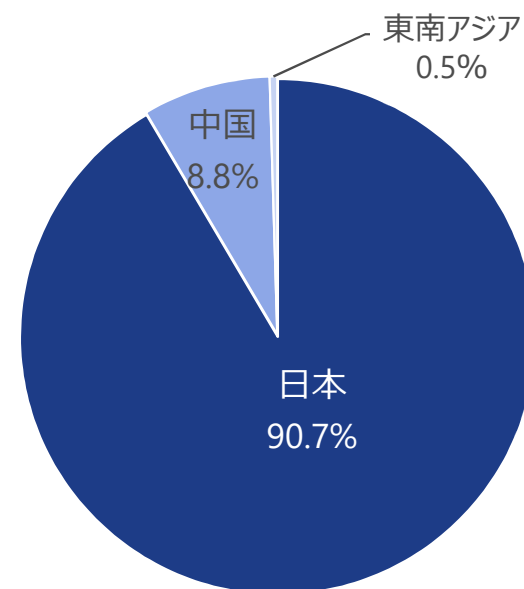


4-2. 2022年12月期予想 販売見込（販売国別）

日本、中国ともに減収予想



2022年12月期予想
販売国別 販売見込構成比



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の目標数値の見直しと背景
2. 事業計画進捗
3. 設備投資の進捗状況



1-1. 中長期経営計画見直しの背景

2018年12月

2019年から2023年までを対象に
中長期経営計画“N-ExT2023”
を策定し公表

市場環境・競合環境の悪化

冷凍冷蔵ショーケース国内出荷実績の推移



一般社団法人 日本冷凍空調工業会 ウェブサイト
(<https://www.jraia.or.jp/statistic/detail.html?ca=2&ca2=14>)より転載

2022年2月

環境問題、消費者ニーズに対応するための
設備投資が継続する想定で計画を再見直し

「巣ごもり消費」増加等の影響で
スーパーマーケットの改装需要増加

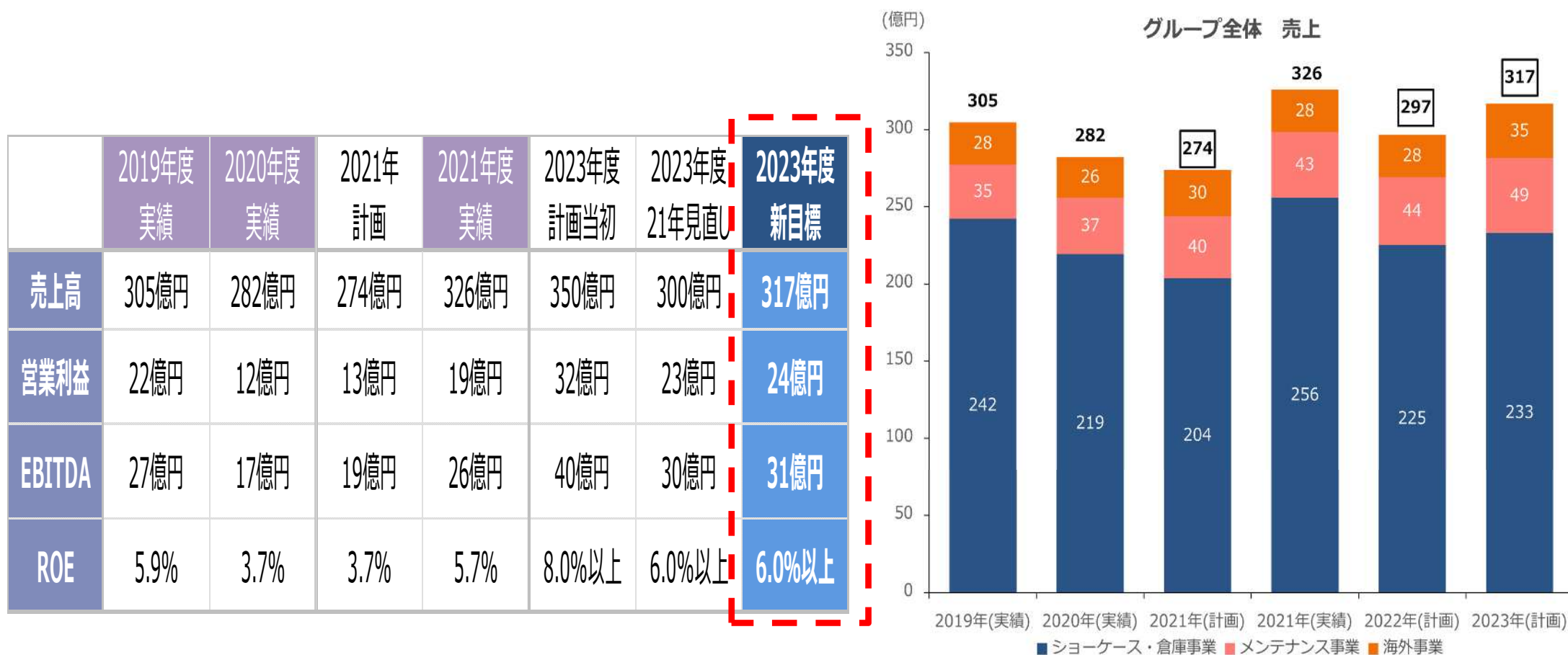
原材料費・物流費高騰
集中設備投資反動

2021年2月

新型コロナウイルスをはじめとした
経済の先行き不透明感から、
当社事業環境・競合環境が悪化
計画を見直し

1-2. 中長期経営計画の目標数値の見直し

**「内食需要」継続等の影響を受け、2021年は計画を上回る結果
2022年も底堅い需要を見込むも、昨年実績までは届かない想定**



※2019～2021年は実績、2022年以降は計画見直し後の数値（2022年2月発表）

III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の目標数値の見直しと背景

2. 事業計画進捗

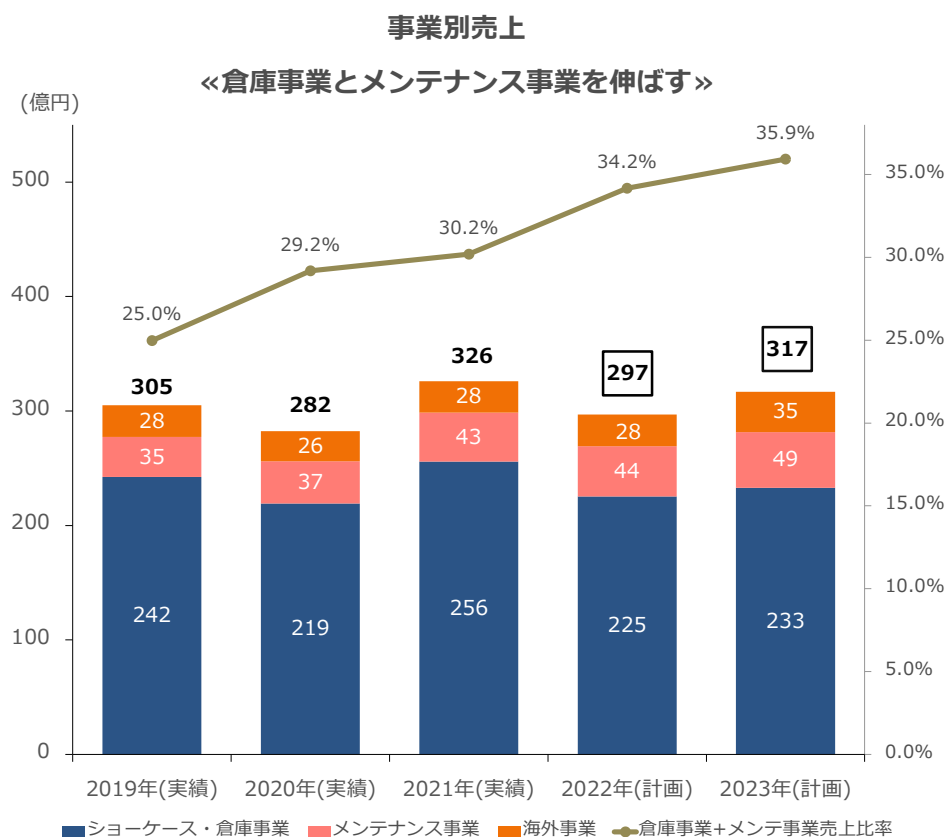
3. 設備投資の進捗状況



N-ExT 2023 のコンセプト

◆「冷やす」技術をもとに最良の製品・サービスを生み出し、顧客と共に新しい課題に取り組むことで社会に貢献する

- A.安定**：新技術を活用した、更なる効率化を実現できる製品・サービスの提供
- B.成長**：従来のお客様の「冷やす」に留まらないお悩み・ご要望の解決
- C.挑戦**：新たなお客様へ向けた、「冷やす」を起点とするサービスの提供



《事業拡大》

- 事業基盤としてショーケース事業の更なる深化を進めつつ、倉庫事業、メンテナンス事業の拡大に力を入れる

【倉庫事業】

- ネットスーパーや宅配事業の更なる普及により市場規模の拡大が見込める倉庫事業への対応を強化

【メンテナンス事業】

- クラウドや店舗監視システムを活用し、メンテナンス領域の拡大による事業基盤の強化を進める

新技術を活用した、更なる効率化を実現できる製品・サービスの提供

【今後の見込み】

- ライフスタイルの変化から、販売商品や売り場に大きな変化が発生
消費者ニーズに合った製品開発と営業活動を強化する
- 環境問題に対応するため、設備投資を強化する企業が増加するも
昨年からの設備投資の反動、資材・人件費高騰の影響で投資
抑制となる可能性を考慮

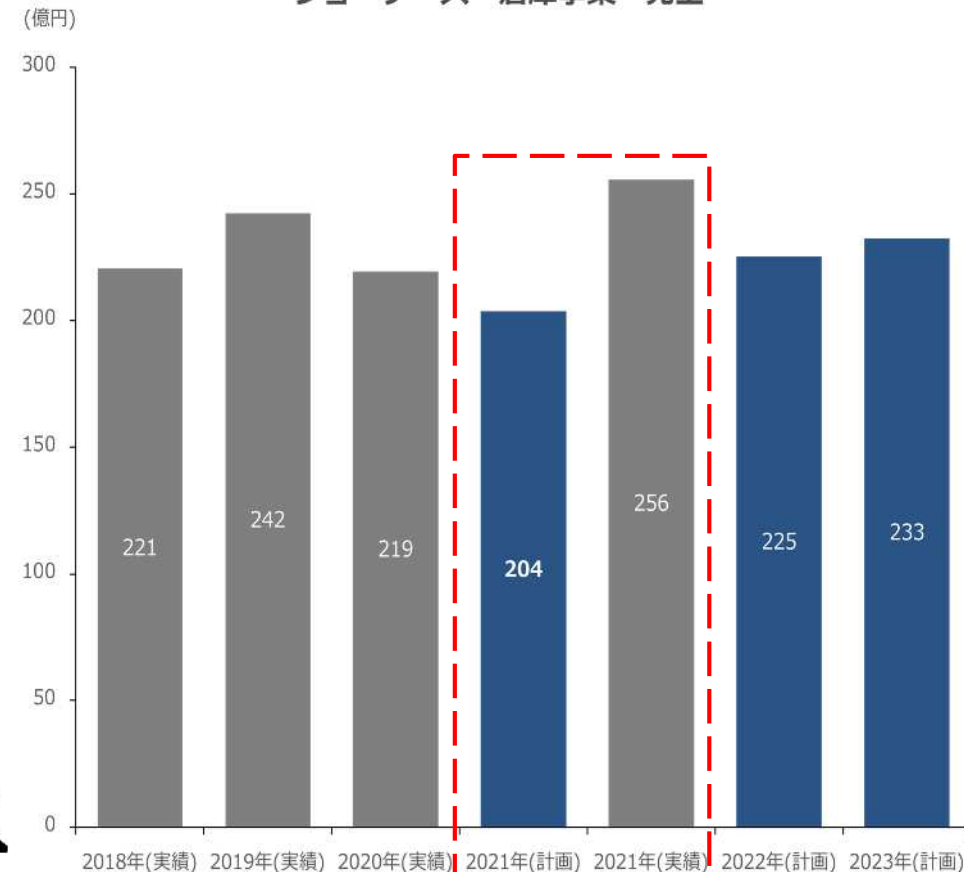


【今後の施策】

- 環境配慮に向けた技術開発・技能強化
⇒ 最新冷却システム・フロン漏洩検知・新冷媒対応
- 店舗環境、作業場環境改善のための提案強化
(結露・コールドアイル等)
- 省エネ・省力化ケースやオプションの開発・提案
- クラウドシステムを利用したシステムの開発
⇒ 異常予知診断確立
⇒ 店舗全体のトータル制御



ショーケース・倉庫事業 売上



2-3. 製品開発進捗状況 / 来年度以降計画

概要 / 実績

【ショーケース】

- 冷凍機別置ケースのモデルチェンジ実施 (2021年3月)
- 内蔵ケーストップランナー対応に向けたインバータ機種の拡充
- 小売店舗における省力化提案継続中



【システム】

- 店舗監視システムのアップグレード (2020年1月)
- 店舗監視クラウドシステム構築 (2020年3月)
- CO2冷却システム対応継続中
- 省エネ、省人化システムの導入提案継続中



今後の計画 / 課題

【ショーケース】

- 冷凍機内蔵ケースの冷媒転換
- 売場変化に伴うニーズに合った製品開発・提案



【システム】

- 環境配慮に向けた新しいシステムの研究
- 最新冷却システムの研究・開発
- 店舗全体のシステムやサービスの提供
- 異常予知システムの確立
- 点検、修理の省人化・効率化



従来のお客様の「冷やす」に留まらないお悩み・ご要望の解決

【今後の見込み】

- 故障を未然に防ぐための、改善提案による継続的な店舗サポートへ移行し、季節要因に左右されない売上獲得を目指す
- 2022年以降も引き続き計画数値を見込む



【今後の施策】

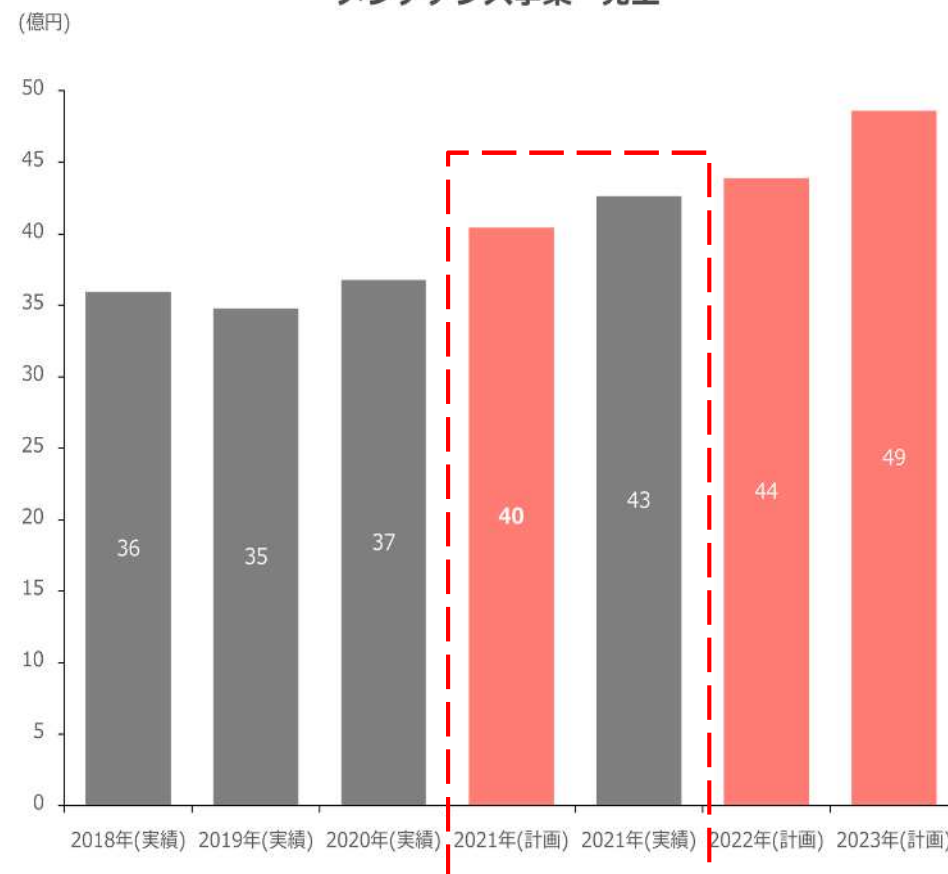
- メンテナンス領域の拡大に向けた対応力強化
⇒ 新規委託先、人材採用、教育
- 保守契約店舗の拡大
- 空調機定期点検の受注獲得
- センサムクラウドと連携した予防保全
- 点検、修理の省人化・効率化



トラブル・ダメージの予防保全



メンテナンス事業 売上



新たなお客様へ向けた、「冷やす」を起点とするサービスの提供

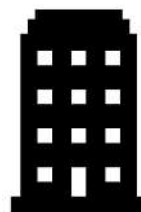


【今後の見込み】

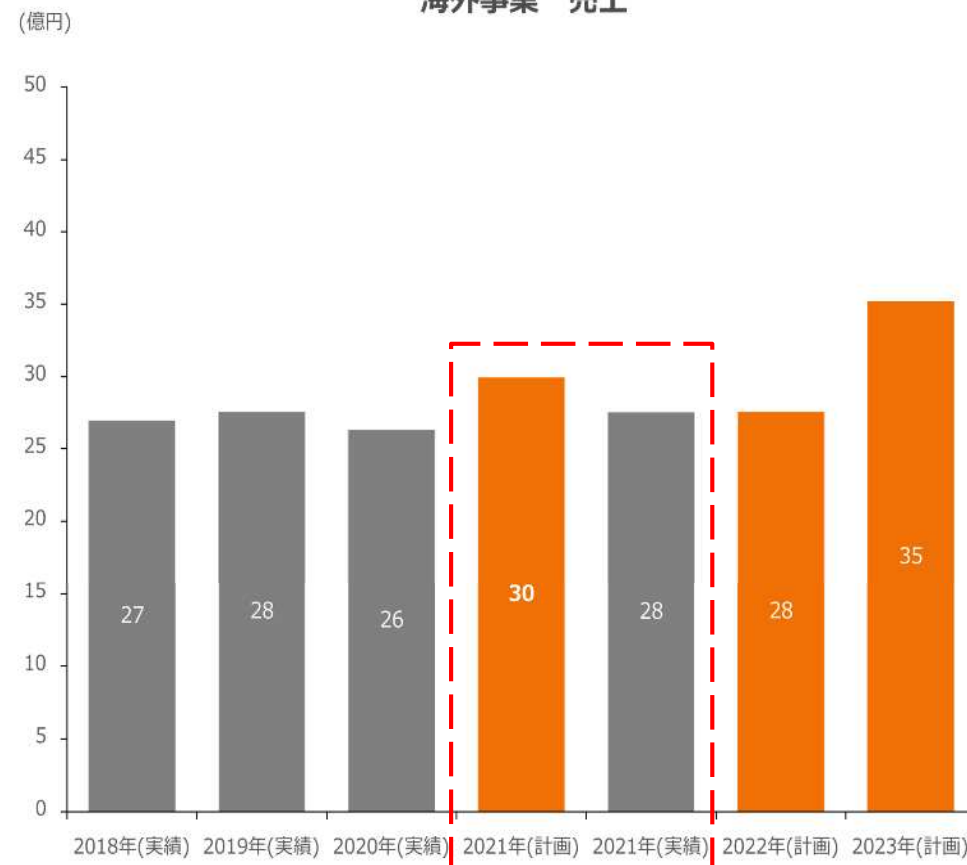
- 東南アジアへの進出に向け計画を進めるが、新型コロナウイルスの影響により、渡航や現地調査に大きな制限が発生中
- 中国は、ネット販売が普及し実店舗の業績が低迷
厳格な行動制限が継続しており、投資意欲が低下
- コロナ禍が終息次第、計画の見直しを行う

【今後の施策】

- 中国合併との連携を強化
⇒ 海外事業における製造拠点として、連携強化
- 日系外資企業への営業
⇒ 既存の顧客接点を起点としたルート開拓
- 現地企業への営業
⇒ 現地活動を通じた顧客の開拓
- 現地人材の採用と技術者育成
- 現地委託店ネットワーク確立



海外事業 売上



III. 中長期経営計画“N-ExT2023”

1. 中長期経営計画の目標数値の見直しと背景
2. 事業計画進捗
3. 設備投資の進捗状況



3. 設備投資の進捗状況

**2021年度は3.6億円の投資を実施
2022年度は17億円の投資を予定**

中長期経営計画 (2019年度～2023年度)



2022年度 計画



2022年度 設備投資実施予定 内訳

生産設備 : 5.7億円
 環境整備 : 1.3億円
 基幹システム : 5.7億円
 業務改善 : 0.3億円
 事業拡大 : 4.0億円

IV. 株主還元方針

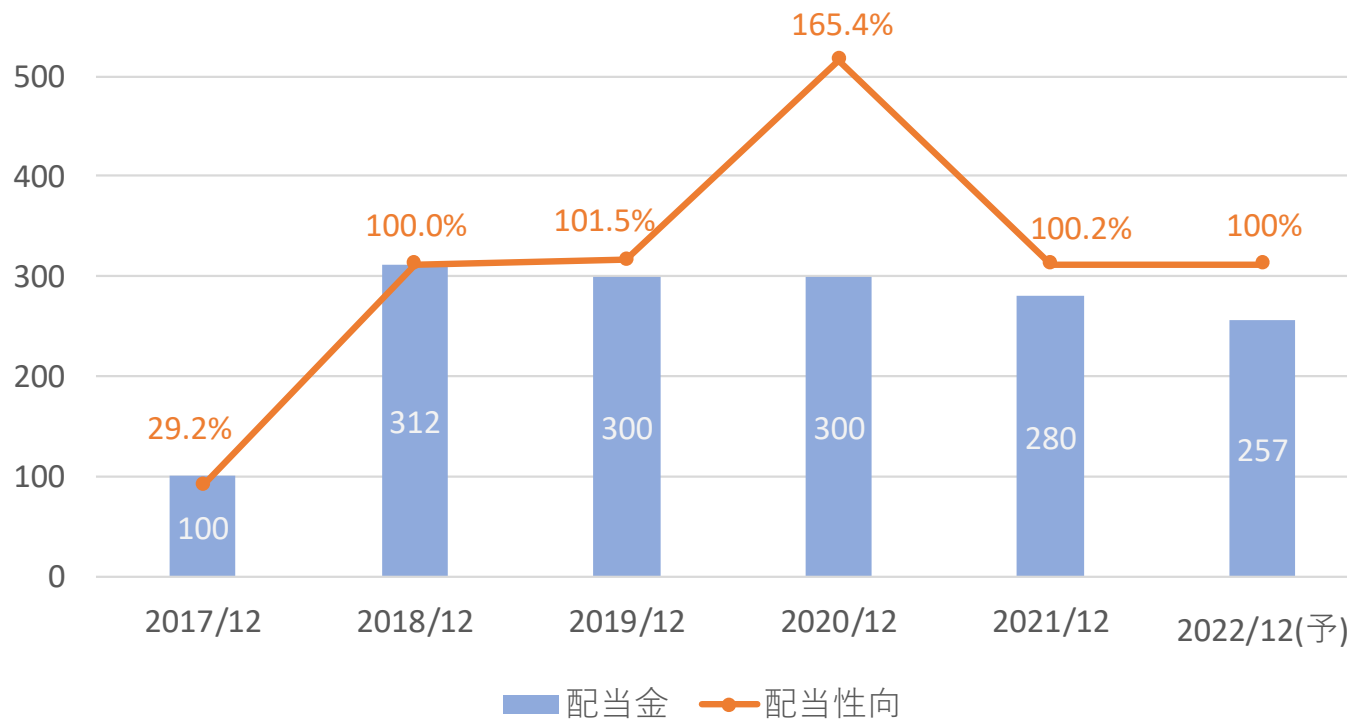


配当方針

- 2021年12月期の連結配当性向について年間100%とし、年間1株当たり配当金額を280円とする
- 2021年12月期以降も、株主利益還元を基本とする配当方針を継続し、連結配当性向について年間100%を目標とする

配当実績

単位:円



V. 企業価値向上に向けた取り組み

1. 企業価値向上に向けた取り組み
2. 環境に向けた取り組み
3. カーボンニュートラルに向けた取り組み



1. 企業価値向上に向けた取り組み

長期にわたる安定成長を通して、全てのステークホルダーとの良好な関係の確立・継続を目指す

マテリアリティ（重点課題）

◆コーポレート・ガバナンスの充実

◆より透明性の高い経営の追求

◆人材育成の強化

◆地球環境・社会への貢献

ガバナンス（G）

◆経営と執行の峻別

- 執行役員制度を導入し、経営と執行の峻別、意思決定の迅速化を図る（2020年3月）

◆3分の1以上の社外取締役を確保

- 独立した立場からの客観的なモニタリングを実施し、更なるガバナンス体制強化を実施（2020年3月）



社会への貢献（S）

◆社員スキルのベースアップへの取り組み

- 全社員のスキルアップに向けた階層別教育制度プログラムの実施（2021年は4階層向けの教育を5月、6月、7月に実施）

◆多様な人材の採用

- 新卒、中途採用における女性社員入社比率の上昇や外国籍人材の採用にも注力



環境への取り組み（E）

◆環境への配慮

- 省エネ、省人化製品の開発を通して、資源・エネルギー消費量の更なる削減を目指す
- ノンフロン冷媒、低GWP冷媒による最新冷却システムの研究開発を強化



2-1. 環境に向けた取り組み

健全な事業活動を基盤とした経営で、ステークホルダーの皆様に対する責任を果たしつつ、お客様と共に社会的課題に取り組み、信頼される企業を目指す



お客様・社会的課題の解決

社会に信頼される企業

中長期経営計画

省エネ

省人・省力化

温室効果ガスの削減

企業行動憲章・CSR方針

経営理念・経営方針

2-2. 環境に向けた取り組み

省エネ

- 新製品開発による省エネ
- 製造工程における省エネ



省人・省力化

- 商品陳列の簡易化
- 豊富なスライド棚ラインナップ

商品陳列の簡易化

● **スライドデッキ機種種のラインナップ**
EPシリーズではスライドデッキ標準化機種をラインナップ。デッキを跨ぐ陳列では、デッキを連結しての引き出しが可能。

● **スライド棚各種ご用意**
お客様の様々なお店づくりに対応させていただくため、日配用、飲料用、生鮮用の豊富なラインナップをご用意しています。

温室効果ガスの削減

- 温暖化影響の低い冷媒への転換
- 製品輸送方法の見直し

● **温暖化影響の低い冷媒への転換**

フロン排出抑制法の2025年目標値(GWP値：1500以下)を目指し、低GWP冷媒製品への転換を進めています。



● **製品輸送方法の見直し**

九州地域への輸送をモーダルシフト(陸上輸送から海上輸送)に転換し、また輸送の効率化として、複数配送を実施しました。

事業で貢献する
SDG s 重点目標



2050年のカーボンニュートラル実現に向けて着実な取り組みを進めていく

2050年 カーボンニュートラルに向けて



④CO2排出量の削減

- 生産から輸送までの事業活動における化石燃料削減、再生可能エネルギー活用を図りCO2排出量を削減していきます。
- 3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進し製品の環境負荷を低減していきます。

①グリーン冷媒への転換

- ノンフロン冷媒、低GWP冷媒による最新冷却システムへの製品転換を推進し環境に優しい製品を市場に供給していきます。
- 2030年までに温暖化係数を半減した冷媒に転換します。

②冷媒ガスの漏洩防止

- AIによる漏洩予知システムで早期判断し漏洩量を最低限に抑えます。
- 確実な施工、メンテナンスで漏洩に対する品質を向上させます。

③環境性能の高い製品の開発

- 省エネ法トップランナー基準を満たし、より省エネ性の高い製品を開発することで、環境負荷の少ない製品を提供していきます。
- 空調システムと冷凍システムを連係させて、店内環境に追従したより効率的なシステムを開発していきます。

1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了しておりません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値、将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。そのため、実際の業績は様々な要因により予測内容とは実質的に異なる可能性があり、当社は、将来に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。



■■■■ 鮮度ビジネスのリーダー ■■■■

Nakano

